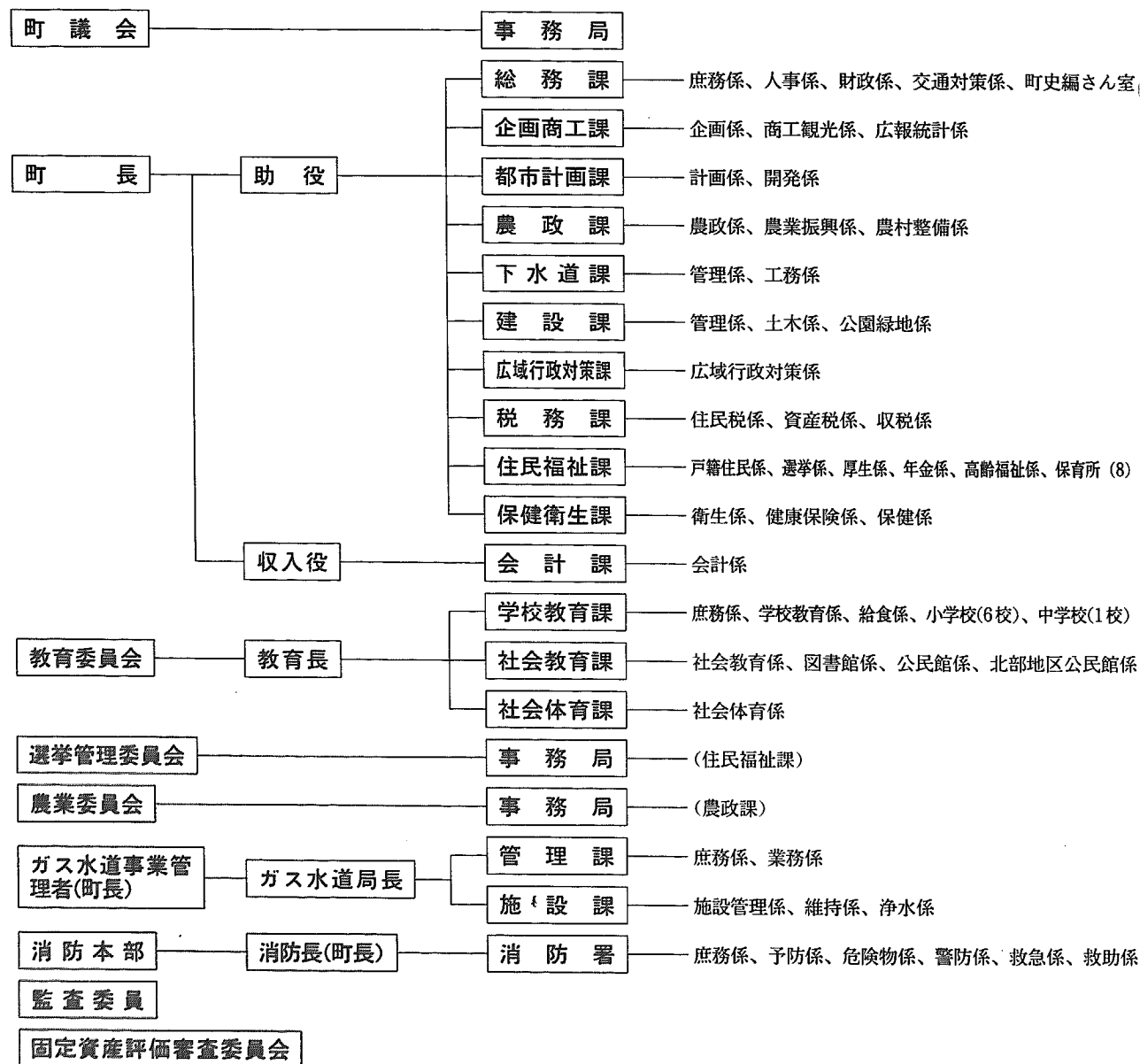


平成8年度行政機構図

平成8年度の町役場の機構は、下図のとおりです。

なお、議会事務局は役場本館2階、総務課から建設課までは役場分館3階、税務課から会計課までは役場本館1階、教育委員会、広域行政対策課は役場分館2階にあります。

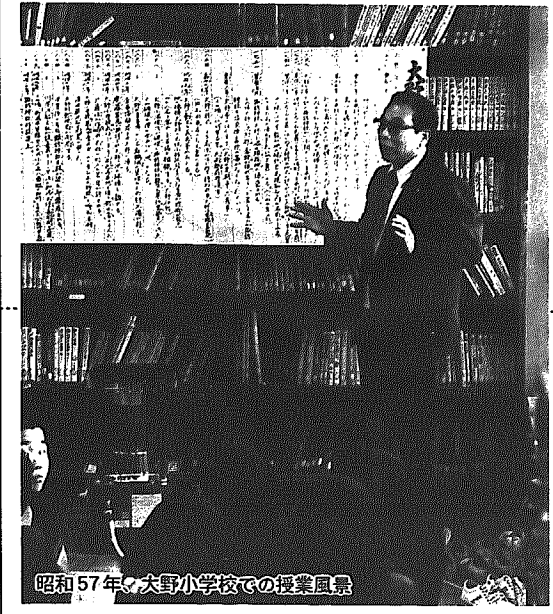
※平成8年4月1日現在の総職員数は、特別職(町長・助役・収入役・教育長)を含め248人。



黒埼町の今音

執筆 宮田栄門

(先月号の続き)
 「光陰は矢の如しという」
 健児団解団の年から早くも五十有余年の歳月は流れ、あのあどけない学生服の少年たちもとくに還暦を過ぎてしまった。そして、日曜学校を開き健児団をつくった本田静庵師も昭和四十七年三月二十七日六十六歳で亡くなられた。戦争で散った人たちの外にも、当時の健児たちの多くがすでに故人となっている。中でも惜しまれるのは、戦後、人望を得て若くして村政の中核で活躍しながら早世した大野周助も立派な健児団員だった。



元健児団員や、関係者の皆さんから聞いた話をまとめてみたが、何しろ五十年以上も経っており、資料等はなにもないため思い出しながら聞き取っていただいたもので、聞き違えや名前落ち等もあると思いますが、御諒承下さい。後稿に戦後、農産加工場が

黒埼町の今昔の著者宮田栄門さんは、十五年ほど前から、大野小学校に講師として、わが町の歴史を教えていた。今年も三年生の子供たちに、三回教えた他、山田小学校の三年生の子供も教えた。宮田さんの授業に子供たちは喜び、給食を食べたり、写真を撮ったり、すっかり仲良くなった。子供たちは、授業のお礼に手紙をくれた。今回からしばらくの間、宮田さんと子供たちのふれあいを紹介していきたい。

社会科の講師を頼まれる。私が大野小学校の三年生の社会科の講師として行くようになったのは、昭和五十六年、大野小学校が、渡辺忠夫校長先生、教務主任北沢庄松先生の時でした。五十六年という、私をはじめでの著書「大野町の今昔」を自費出版した年で、その時渡辺、北沢両先生から御指導をいただいたのが縁となって学校へ行く

平成七年度は、二回も講師を頼まれて大野小学校に行きました。一回目は、第三学期の二月四日(午前九時三十分から十一時三十分)まで、大野小学校集会所に三年生百十七名を集め、社会科の講師として大野の町の昔の話や、昔の学校のことを話しました。そして、その三年生が四年に進級した同じ年の十月

二十四日、また、前年に続き三年生の担任となった小川先生から、十一月に三回に分けて行う社会科の講師の依頼をうけました。授業は、一回目が十一月八日午前九時四十分から、二回目は十一月十三日午前九時四十分から、三回目、十一月十六日午前十一時二十分から、約二時間ずつということでした。第一回目の授業は予定通り十一月八日午前九時四十分から十一時四十分まで、三年生三クラスの百十数人を集会所に集めて行われました。当日も私は古い民具のすげ合羽や、わらぐつ(ふかぐつともいう)、女の子が祭りなどに買ってもらったポンポンげた、雨や雪の日に履いた足駄、昔の子供の着た木綿縞の着物などを持って行きました。

三年生というと、入学して三年目のそろそろ学校生活にもなれ、ものごとくに好奇心と興味をもち始める年ごろです。私の用意した大野町や大野小学校のことを書いた年表にも非常に歓心を示していましたが、次いで私の取出す品物を目を輝かせてみていました。特に喜んだのは三和無線(七区竹内竹一さん)から借りて行った、大正末期の黒い骨董品のような扇風機でした。

私が小さな蓋を開けて中から筆を取出し、矢立の容器の墨で文字を書いて見せたらびっくりしていました。「これは矢立といって、昔、商人が店を出て商いをする時帳面に書いたり、俳句を書く人が何時でもすぐ字が書けるように歩いたもので、今のボールペンや、シャープペンのようなものですね」といったら、「昔もそんな便利なものがあったのか」と、感心していました。社会科で、子供たちに時代の移り変わりや、町の人たちの昔の暮らしぶりを理解させるには、こうした先人たちの実際に使った生活用品や民具などを見せ、それに、じかに触れさせることが一番効果的だとおもいました。(続く)

番外編
 おしいちゃんの子供たちの交流(一)
 黒埼町の今昔の著者宮田栄門さんは昔の大野の暮らしを子供たちに教えるため講師の依頼を受けた。

講師の依頼を受けた時、北沢先生は、三年生の社会科を担当する先生が、みな地元のことを知らない他地域の人のちで、教科書もまた他県の人たちの昔の暮らしについて記されたものばかり。そこで、昔の大野の人たちの暮らしを、実際に地元の人から生の声で教えてもらえれば、生徒が授業に、より興味をもってくれるのではないかと、いうことでした。以来、中間に一時休んだことがありました。が、今日まで十数年間、大野小学校の三年生の社会科の時間に、町の古老から聞かされた昔の人たちの暮らしぶりを、古い民具などを持参して話してきました。

二十四日、また、前年に続き三年生の担任となった小川先生から、十一月に三回に分けて行う社会科の講師の依頼をうけました。

た。羽が回り、首を振りはじめると「ワアッ」と喚声をあげました。次に矢立てを、「これは何だと思えますか」と、見せました。矢立、江戸末期から明治初期のものと思われる青銅製で、筆の収納部分は長さ十八センチ、直径一・五センチの円筒形で一番端に墨皿の容器がついている。